



### 待望の体育館が完成

完成が待ち望まれていた早通中学校の体育館が完成し、7月3日体育館開きが行われました。「新しい体育館で体を鍛え、美しい心を育てて欲しい」と市長が祝辞を述べた後、新発田第一中学校の体操部員の新体操などで完成を祝いました。



### キャンプシーズンを前に

7月1日、旧葛塚小学校跡で、子供会のリーダーなどを対象に、テントの張り方指導が行われました。集まった約70人は、市レクリエーション同好会の佐藤浩さん(朝日町一)の指導を受け、テント張りに汗だくでした。



### お見事、九・三キロの鯉

松影の佐藤敏明さんが六月二十六日の午後一時ころ、新井郷川で、八十五センチ、九・三キログラムの鯉をつり上げました。四十分もかかってやっとつり上げました。運が良かったんです」と佐藤さん。



(19)

### 豊栄の都市計画 その一

昭和二十七年の葛塚都市計画土地区画整理事業は、旧法の耕地整理法に基づいたものであり、この



昭和三十年の駅前付近

年に葛塚町役場に「都市計画室」が設けられて事業が始められた。これが本市の現在の都市開発課の前身であり、都市計画事業の始まりである。白新線葛塚駅(現在の豊栄駅)と旧町との間に、公用地と商店街を含む宅地をつくることであった。

しかし、駅につながる道路を始め、街路事業の整備が先決問題であり、先に葛塚停車場線、葛塚中央線、葛塚石動線、葛塚神山線が決定されており、道路網の骨格が作られたという。

このことから面白い結果が生まれた。新設道路が水田の地割りや舟堀り(農作業用の舟運のため)に田と田の間に設けられた堀(と斜めに交わるため、建物も道路と斜めに交差することである。理在でも随所にその型が残っており、白新町の小料理屋の北斗さんなどはその例である。

斜め交差といえば、この水田は幅がせいぜい六、八にすぎないのに長さは二百、三百にもあったと聞く。航空写真でも特異な景観を見ることが出来る。水田と畦畔の形状が都市計画にも大いに影響したわけである。

これは当時の土地区画整理事業が今日のように完全なものではなく、予算が少なかったことから宅地造成までには至らず、道路以外は自己負担に任されたことにもよる。わずか八百八十万円の総額であった。

都市計画のモデルは、人口規模が似ていて若干先に進んでいた西蒲原郡吉田町であった。また、二十七年の都市計画以前にも宅地造成はなかったわけではなく、栄町の宅地造成は二十五、六年のことであり、戦前まで近郷地主を集めてにぎわった常盤町などは明治初期に埋め立て造成された町である。当時の資料を見つけないものである。

とにかく、八田健吉元葛塚町長、三林元市長、そして現在の石井市長までそれぞれ特性を生かした都市づくりが御苦労されたことがうかがい知れた。今回は主に二十年もの長い間都市計画業務に従事された浜崎元課長さんから、種々の御苦労談やエピソードを得ることができた。

市史編さん員 高津斌彰

### 表紙のことば

大瀬柳の倉島貞太郎さん(三五歳)は、カーネーションを作って十四年目。ハウスの中には、赤、ピンクなどの色鮮やかなカーネーションが咲きほこっています。この日も、奥さんの美恵子さん(三二歳)と花の取り入れに懸命でした。

### 編集室

▽ 昨年の十月以来空席だった市の助役が決まりました。伊藤寿栄新助役は、「市の発展のため市民の幸せのため、皆さんと一緒に頑張りたい」と職員を前にあいさつを述べました。

▽ 豊栄市はこんなまちであって欲しい―など、市民の声を聞く「シリーズこんなまちに」の三回目は農業取材しました。

米の作付けが終わってから、韓国米の緊急輸入、青刈り稲の他用途利用米への転換など、揺れ動く国の農政に、農業者はやり切れない思いをぶつけていました。皆さんのご意見などをお待ちしています。